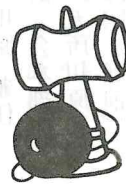


仙台教区報

カトリック仙台司教区本部事務局
〒980
仙台市青葉区本町1丁目2番12号
☎ 022(2222) 7371
FAX 022(2222) 7378
編集・発行 板垣 勲

よりよき宣教共同体を目指して

新たな発想によって歩み出そう



日本の教会がナイス運動によって変革の道歩み出した中、仙台教区でも信徒の意識改革を進める動きが新たな段階を迎えることになった。

仙台教区では宣教司牧地区制度をすでに3地区で実施しているが、司祭の高齢化と減少が目に見えてきており、さらに一歩踏み込んだ対策を取る必要に迫られている。この状況に対応するには、信徒が教会の内外で積極的に役割を引き受けることが考えられている。それによって、問題解決の道が開かれることが期待される。

このために、仙台教区は今年度から新たな発想に基づき、思い切った打開策を見出すことを目指した司祭派遣の見直しを2年間にわたっておこなうことになった。

佐藤司教が司祭に宛てて1月に発表した「仙台教区がよりよき宣教共同体となるための司祭の派遣について」と題された文書は、教区内で宣教司牧地区をこれからも推

進していくことを前提にして、仙台教区がこれから取り組むべき最重要課題を明らかにしている。同文書はさらに、教区の宣教司牧の体制に直接に関わる司祭派遣などの変更事項を述べている。

教区の最重要課題を明確にし、刷新された共同体づくりのため信徒の意識が変わることを願って発表された文書の概略を紹介する。

教区の最重要課題

(1) 司祭派遣の前提となる今年度から取り組むべき仙台教区の最重要課題

① 信徒の意識変革と実践的養成の具体的方策を作成し、信徒・修道者・司祭・司教が相互に養成されていくような仕組みを推進する。これによって、聖職者中心の教会から、信徒と司祭がそれぞれの役割を充分に果たせる教会に切り換えていくことを目指す。

② 新しい世代である若者、青少年の信仰教育に最大の力を注ぎ、教区内で具体的活動を強力に進めていく。

宣教司牧に関わること

(2) 今年度を実施する変更事項

① 司教総代理の交替。② 司祭の役割分担などの見直し。③ 仙台中央地区を拡大して東仙台教会、西仙台教会を加える。同地区には5名の司祭が派遣され、信徒とともに宣教司牧にあたる。④ 福島県浜通り地区に宣教司牧活動のため、無原罪聖母宣教女会の協力を得て宣教女3名を派遣する。

(3) 司祭の異動

① 本年度教区では異動や引退で6名(発表後司祭の死亡があり、人数は7名になった)の司祭が抜け、今年度教区内で活動出来る司祭は59名になる。教区で働く司祭の多くは幼稚園などの教会の事業に関わっていて、司祭の宣教司牧活動の範囲が現状よりも狭くならないように創意工夫が求められている。② 仙台市北部の宣教司牧活動のため、土井勝吾神父が現職のまま同地で開拓伝道を試みる。③ 宣教司牧地区と呼ぶない地区では、今まで以上に司祭と信徒の協力態勢・体制を組むことを奨める。④ 3点を考慮した94年度の司祭人事異動の発表。

佐藤司教は文書で「思い切った打開策を見出さなければならぬ」「現状を変えて

いくということは、どんなときでも痛みを伴う」「(変わることへの)対策は慎重に進められなければならない」と語りかけたうえで、まず司祭が教区の現状を自覚することを促している。それから全信徒に状況を知ってもらい、教区が抱えている課題に教区全体をあげて取り組み、現状をより良い方向へ転換するため力を合わせるように呼びかけている。

仙台教区では、今までにいろいろなところで「信徒の時代」が話題になったきた。今回の文書はそれが仙台教区で実現されることを願い、そのために教区内の司祭、信徒が教区の実情に目を向け、理解するように求めている。同時に教区には、解決を求められている難しい問題があることに関心を向けるように訴えている。

福音宣教は特定の人に限定されるものではないという原則を、全ての信徒に思い出させる文書は、一人一人が自覚ある信徒となって福音宣教の使命に生きるように呼びかけているのである。

これに應えるには、教区内の各種の評議会、委員会、団体の構成員だけでなく、信徒一人一人が福音宣教の新しい歩みを始める時が来たと自覚することがポイントとなるだろう。すなわち、教会が抱える問題の解決は、信徒が今までのことにとらわれずに生きることを選択するかどうかにかかっている。

◆ 司祭人事 ◆

4月1日付

【教区司祭】

村首ステファノ

宮城県豊茂モデラトール

平田浩

宮城県南地区(西仙台)

佐々木博

司教総代理、仙台中央地区

渡辺昭一

(宮城県豊茂モデラトール)

梅津明生

石巻(一関、千厩)

佐藤守也

仙台中央地区モデラトール

平賀徹夫

(司教総代理、教区本部)

氏家利和

一関、千厩

【グアダルーベ会】

メキシコ帰国(白河)

H・フェデリコ

カリシ新開社(宮城県南地区)

ホアン・S・M・L

白河(東仙台)

I・M・バエス

仙台中央地区(司牧実習)

【ケベック会】

五所川原 兼任

J・L・デュメン

弘前(会本部)

M・ペランジェ

東京赤堤(五所川原)

M・ラベ

カナダ帰国(弘前)

J・ガブリ

【ベトレヘム会】

M・ゲンペルリ

仙台中央地区からスイス

に1月28日一時帰国

《引退》

3月31日付

深沢 豊治

3月31日付

訃報

フィリップ・リード神父

2月26日にカナダ・モントリオール市で
 帰天。100歳。聖ドミニコ会。カナダ
 管区の最初の宣教師として来日。仙台、
 東京両教区で活動後、心臓病のため帰国
 して療養生活を送っていた。

マリイ・ヨゼフ・ルミュー大司教

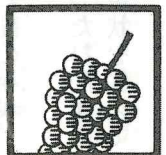
3月4日にカナダ・オタワ市で帰天。91
 歳。聖ドミニコ会。仙台教区の創設者。
 初代教区長として教区の基礎づくりに貢
 献した。カナダ帰国後は教皇庁大使やオ
 タワ大司教として活躍し、その後引退生
 活を送っていた。

フランソワ・パリゾー神父

3月19日夜、北仙台教会司祭館で心筋梗
 塞のため帰天。53歳。聖ドミニコ会。カ
 ナダ・モントリオール市出身。70年に来
 日して京都、東京両教区で司牧。88年に
 北仙台教会に着任し活躍していた。

ルイス・ロペス神父

3月23日にメキシコで帰天。64歳。グア
 ダルペ会。主に仙台教区で活動し、管区
 長も務めた。77年に帰国し、約2年前か
 ら病氣療養生活を送っていた。



司牧評議会議△云
定例△云議の報生口

司牧評議会議定例会議が23名の評議員が出席して開催された。今回の議題は司牧区センターの活用と教区宣教司牧を考えることであった。

最初の審議は、昨年7月末から使われている司牧区センターの管理運営規定と使用規定の制定について行なわれ、規定は提案どおり承認された。これによって管理運営委員会が早速に動きだすことになる。

第二議題は教区の宣教司牧について話し合うため、はじめに教区生涯養成委員会と教区青少年担当者から今までの活動の報告を聞いた。話し合いは具体的な活動があまり出来なかったと報告されたことを反映して、それほど盛り上がりなかった。しかし話し合いによって、司教から司祭に1月末に出された文書が訴えていること、掲げられた議題が教区の大事な問題であることが評議員に確認された。この議題は種々の問題を提起し、更に話し合いを深めるべきと認識されたが、継続審議事項となった。会議は司祭召命活動、ナイス2後の取り組み、人権福祉委員会それぞれの今後に関する報告、そして司牧区センター建設に関する正式な会計報告が遅れること、司祭の家が建設される(後述)ことなどが話されて終了した。

銀 祝

おめでとうございます。

土井 勝吾
梅津 明生

69年7月5日叙階

「司祭の家(仮称)」

建設基本計画が発表される

教区司祭団を中心に検討されてきた「司祭の家(仮称)」の建設が決まった。

この決定は司祭の高齢化への対応と司祭が引退後に住む家が早急に必要として教区司祭団役員会で話し合われてきたことに基づくものである。

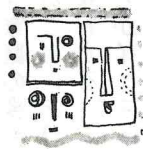
教区ではすでに高齢司祭のため仙台市内に建物と、司牧区センターに一室を持つているが手狭になることが予想されていた。計画している建物は宣教会司祭でも入居を希望する人があれば、応えることを考えて作られる。

新築される建物は、東仙台の司教館に隣接する通称「光ヶ丘研修所」を取り壊した土地に木造一部二階建として建てられる。間取りは司祭居室(約18帖)4部屋、聖堂

食堂、応接室、職員用の部屋などとなり、増室可能な設計である。

建設工事は4月に研修所を取り壊しを終わって、本格的工事を始められる態勢が整っている。建物の竣工は10月を予定。

建設資金は高齢司祭基金、教区本部、教区司祭団からの拠出を主にして、不足分は教区司祭から拠出される寄付金、その他によって調達することになる。教区内で寄付金を募ることについては、3月の司牧評議会議定例会議で了承されている。



仙塩地区

教会学校リーダー研修会 案内

期日 6月11日(土)午後4時から

12日(日)午後3時半まで

場所 ドミニコの家

講師 シスター影山(援助修道会)

費用 4千円

申込先

980仙台市青葉区角五郎2-2-14

聖ドミニコ修道院 シスター赤間

022-225-1055

申込締切 6月1日まで

申込締切

第2回福音宣教推進全国会議

司 教 団 文 書

「家庭と宣教」



昨年、長崎で開かれた第2回福音宣教推進全国会議（以下ナイス2）の「答申」を受けて司教団は3月24日に「家庭と宣教」と題した文書を発表した。この文書はカトリック新聞に発表されたあと、「答申」を含む小冊子として全教区に配布され、仙台教区内でも配布された。

「家庭を支え福音を生きる教会共同体の実現をめざして」と副題が付いている文書は、最初にナイス2の「答申」で強調された教会刷新の必要を司教団も認め、教会がこの課題に真剣に取り組まなければならないことを明らかにしている。

そのうえで、信者はそれぞれ違う場所に住み異なる問題に直面していても、同じ神の子、同じキリストにおける兄弟姉妹であることを確かめあうことができたとしている。更に文書は信者が直面している課題に取り組むよう励まし、今後の教会の活動のため大切になる事柄に気付くように訴えている。

教会の現実を見ると、多くの信者はまだまだナイス2が何を目指したのか分からないと感じている状況がある。それだけに、司教団文書が何を語っているか、信徒それ

ぞれが自分で読むことが望まれる。若干のことばを加えながら文書の概略を紹介する。

一、家庭の現実から

教会の使命は福音宣教であり、ナイス2は人々の生活の中心である家庭の現実に焦点を当てることから出発して、この使命に取り組むことにしました。

現代の家庭には、人間らしく生きたいという切なる飢え渇きがあり、また一人ひとりの人格の尊厳を大切にする動きもあり、それを『福音の芽生え』とよぶことができます。この現実を見ると、今の家庭こそ救いを必要としているといえます。この救いを求める叫びは、たとえ人々が意識していないとしても、救い主キリストへの飢え渇き、キリストを求める叫びである、といっても間違いではありません。この叫びに答えることが今のわたしたち日本のカトリック教会の務めではないでしょうか。

二、愛の共同体である家庭

わたしたちが愛の共同体である家庭を築いていくためには、まずわたしたち一人ひとりが、神の愛をしっかりと受け止めることが必要で、どんな家庭も、いかなる状況に置かれていても、この神の愛から切り離されてはいけません。信仰を通して神の愛を深く知れば知るほど、わたしたちには神の

愛にこたえる力があたえられることでしよう。愛のおきては自由を束縛するものではありません。それは、わたしたちが日々の生活のなかで神の愛にこたえていくよう、促し駆り立てる聖霊の働きです。

三、家庭を支える教会

隣人愛はまず家庭において実践されるべきで、家庭も教会ともに愛の共同体として、いのちを生み育てる共同体です。カトリック教会の伝統のなかに「家庭の教会」という表現があり、家庭とは本来、教会の生命と使命に参加するものであることを端的に表わしています。

教会共同体の務めは、信者が日々家庭において、神の愛にこたえて「家庭の教会」を築いていくよう支え助けることにあります。そのためには「共感・共有すること」を大切にしたい。わたしたちがイエス・キリストにならない、ことばと生活によってキリストの生き方を宣言するとき、わたしたちは愛のおきてを實行しているといえるでしょう。そのような地味で目立たない日々の努力の積み重ねのなかに、新しい福音宣教のあり方があるのではないのでしょうか。一人ひとりの信者の信仰生活をより豊かなものとするのが不可欠です。そのため大きな源泉は典礼です。現行の典礼の精神と法規を学ぶことはたいへん有益です。それぞれの共同体で、日本文化のなかに福

音が開花し、典礼が人々の琴線に触れ、生活の力、光、導きとなるように、努力を続けましょう。

ナイス2は若い人々の信仰を深める良い刺激と励ましの契機になりました。若者は固有、独自の使命を持つ存在です。若い時代はエネルギーにあふれている時代です。その力が教会と社会のなかでキリストをあかしする活動に向けられるように期待しています。この活動の体験は人生の喜びとなり宝となると信じています。

四、分かち合いを通して

愛の共同体である教会と家庭を支え育てていくためにナイス1で述べた「ともに」の精神、そして、その趣旨を生かす「共感・共有」が大切です。

「分かち合い」には、貧しい人々、苦しんでいる人々とともに苦しみ、自分が受けたたまものをその人々とともに分かち合うことも、本質的な要素として含まれます。

「分かち合い」にはまず、同じ人間としての深い共感と共有がなければなりません。その模範を示したのは、人となられた神であるイエス・キリストご自身です。わたしたちが、キリストを中心にして集まり、心を開いて語り合うとき、キリストの声はより力強く響きます。そうすれば、自分自身の状況を正しくわきまえるだけでなく、兄弟姉妹の立場にも、正しい理解を示すこと

ができるように変えられることでしよう。「分かち合い」は教会共同体全体の課題であり、わたしたち一人ひとりの課題です。いかに福音宣教すべきかの基準はイエス・キリストご自身の生き方とその福音宣教にあります。

終わりに

司教団は、今後も全国の皆さんの声に耳を傾けながら、皆さんと手をたずさえて、福音宣教しようとする日本の教会の刷新運動を継続発展させていく決意です。現実のなかで理想を求めて努力するには多くの困難が伴いますが、それを一つひとつ克服して前進していくことこそキリスト者の道であり、そこにこそ大きな喜びがあります。キリストを見つめつつ、聖霊に導かれ、真心をこめて、神の恵みにこたえてともに歩んでまいりましょう。



仙台司教区

病者・障害者

団体連合会

発足

教会でも社会でも自分たちの声を上げるのが難しく、孤立しがちな病者や障害者が集まり、交流を深め自立していくことを願って、仙台司教区病者・障害者団体連合会（略称・仙台病障連）が2月27日に結成さ

れた。

結成のきっかけは3年前に仙台で開かれた第4回カトリック障害者連絡協議会総会を病者・障害者の手によって成功させたことにある。連合会の結成に至るまでには、病者・障害者の人に仲間づくりの意味を知らせること、教会の理解を得ることなど、様々な困難があった。

障害者が教会に行ったとき、「人に迷惑をかけてまで来なくても、家で祈っていいのよに」との声などが、まだまだ聞かれる現実があるだけに、仙台病障連が活動を始めることには大きな意味がある。

仙台病障連はカソック仙台（病者・障害者）、アンジェラスの会（視覚障害者）、宮城県内手話サークル（3グループ）、福島県カトリック障害者協議会で発足した。初代会長は青山里恵子さん（カソック代表・元寺小路教会）が選ばれ、指導司祭は土井勝吾神父が就任した。

青山さんは「いろいろな障害を持ってがんばっている人たちが、教会の一般の集まりに積極的に加わって、一人の信者として宣教に関わってほしい。それが出来るため、精一杯がんばりたい」と抱負を述べている。

4団体で発足した仙台病障連は、教区内の仲間の輪を更に広げて活動することを目指し、青森・岩手に住む病者、障害者の参加を呼びかけている。

島津禎久写真展を終えて

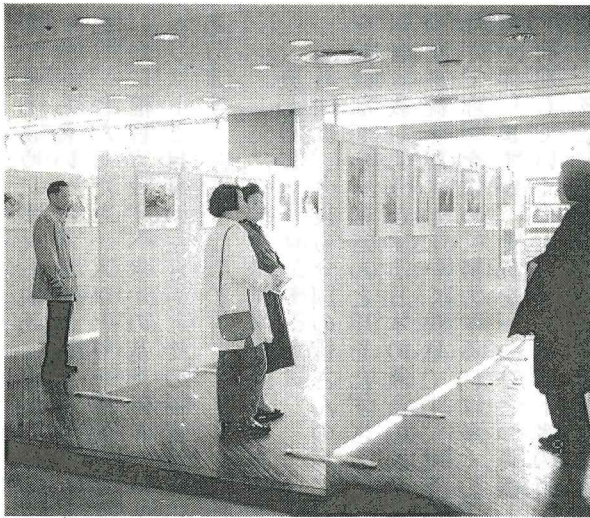
島津禎久写真展実行委員会

ホスピス設置を願う会

代表 小野 敬子

ホスピスを題材にした写真展、「充たされた日々イギリスのホスピスを訪ねて」について報告いたします。写真展は「仙台でのホスピス設置の一日も早い実現を願って」をメインタイトルに、4月8日から12日までの5日間、仙台市中心部にある東北電力グリーンプラザで開かれました。

当初、写真展を計画したとき、ある有名なタレントのガン死があり、展示する写真のカメラマン・島津禎久さんが皇室につながる方ということもあり、それなりにアピールするとは思っておりました。しかし、マスコミ各社の応援もあって私たちが想像した以上の大きな反響を呼び、三千五百人以上の人に見ていただくことができました。会場では写真を見ながら、自分の家族の死とあまりに違ふと涙を流された方、自分に残された遺産を渡す子供がいないのでホスピスに寄付させて欲しいと受付に申し出られた方、私たちをつかまえて医療者側の無理解を訴え続けた方等がありました。ざわついた会場の中で、あまり期待せずを用意した二本のビデオの画面の前にはいつも人だかりがありました。



ごく普通の方々がこれほどホスピスを待ち望んでいるとは、私たちには思いもよらないことでした。心臓病や高血圧を原因とする死とは違って、どうしてガンによる死だけがこれほどまでに、残された家族に深い後悔や無念の思いを残してしまうのでしょうかと思わずにはいられません。

ガンは3人に1人がかかる今や一般的ともいえる病気となり、4人に1人が命を落としていく現状を考える時、ホスピス設置の運動は広く一般の方々との連帯が力となると思います。ガンで家族を失った多くの人の、延命中心の医療への批判の声は必ずやホスピス設置の追い風になるでしょう。

ホスピスケアは決心しさえすればどんなところでも実現出来ると私は思っています。しかし、ホスピスケアには多くの人手とお金が必要なことも充分過ぎるほど知っています。私たちは病院側ばかりが大きな経済的リスクを背負うことを決して望んでおりません。

写真展を通して「乏しきこともまた恵みなり」と心から思わずにはいられません。計画当初私たちには資金も経験も会場もありませんでした。でもそれだからこそ多くの人が、今回の写真展にお手伝いの手を貸してくださったと思っています。

私は世に必要とされているものならば、人々は必ず後押ししてくれる、誰よりもまず神様が一番力強く応援してくださると信じています。

八十二点の写真の中に、ホスピスの精神そのものを写した作品がありました。痩せ衰えた手を握りしめているもう一つの手、その手は「私には何も出来ないけれど、いつもそばにいます。だから安心して。あなたを決して一人にはしておかない」と語りかけているようです。

写真展開催にあたり、私たちにカンパをお寄せくださった仙塩地区の教会の皆さまに心から感謝いたします。私たちのホスピス設置を願う活動は今始まったばかりですが、今後とも暖かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

仙 台 司 教 区 統 計 (1993. 1. 1~12. 31)



面 積 45,946.98Km² (青森・岩手・宮城・福島)
 総人口 7,307,902人
 信徒数 12,015人 (滞日外国人は未算入)

	青 森	岩 手	宮 城	福 島	教区外	合 計	
教 会	12	14	17	14		57	
巡 回 教 会	2	2	3	4		11	
集 会 所	2			1		3	
信 徒 数	男	823	719	1,620	1,116	8	4,286
	女	1,531	1,305	3,003	1,890		7,729
	計	2,354	2,024	4,623	3,006	8	12,015
秘 跡	洗礼(幼児)	16	24	43	26		109
	〃(成人)	35	20	55	34		144
	堅 信	7	1	24	0		32
	結 婚・餽 司	3	2	3	3		11
	信、他クリス者			1			1
	信、他宗教	14	14	29	10		67
	他宗教司	35	140	107	51		333
男子修道院			1				1
女子修道院	8	4	14	6			32

司祭不定住
 教 会
 釜 石
 千 厩
 角 田
 勿 来



教区司教、司祭

司教 2人
 司祭 30人
 神学生 3人

宣教会、修道会司祭

外国人司祭 41人
 〃 神学生 3人

修道者

邦人修道士 2人
 外国人 〃 2人
 邦人修道女 292人
 外国人 〃 31人
 修練者等 7人

教会学校、要理、聖書研究

	男	女	計
幼児、小学生	341人	412人	753人
中学生	77人	91人	168人
高校生以上	123人	485人	608人

一般事業

センター・会館 4 25,791人
 学生寮 1 7人
 音楽教室、他 2 2,210人

教育事業

短期大学	3	1,653人
専門学校	1	34人
高等学校	8	6,552人
中学校	6	1,425人
小学校	8	2,019人
幼稚園	51	8,019人

社会事業

病院	1	132ベット
診療所	1	4,800人
老人ホーム	5	301人
精薄児・者施設	3	79人
養護施設	5	323人
保育園	9	580人

久々に助祭誕生

聖香油ミサの日に、教区として久しぶりの助祭叙階式が行なわれた。助祭に叙階された神学生は田中丈夫さん。叙階式は山形から出席したお父さん、40名以上の司祭団と多数の信徒が集まり、喜びあふれるものとなった。この日は教会奉仕者選任式もあり、小松史郎、和野信彦両神学生も家族の目の前で新たな奉仕職に選任された。

田中助祭の誕生は教区の司祭が減少している中で明るいニュースとして、多くの人から歓迎された。また、一方では教区には3名の神学生しかいないことを思い起こさせ、信徒に教区の司祭召命活動への関心を呼び覚ますことにもなった。



情報 報

佐藤司教ローマへ

仙台司教区も加盟している宮城県宗教学人連絡協議会は、持回り恒例の本山研修を行なう。今年は佐藤司教が案内役を務めてバチカン・ローマ教皇庁を訪ねる。日程は6月5日から14日まで、21名が参加する。

典礼大会開催が決まる

司教区センターを会場に、11月3日から5日まで東京教会管区司教区典礼委員会が主催する「東日本典礼大会」の開催が決まった。大会テーマは「一人ひとりの祈りから教会の祈りへ」。開催の準備は仙台教区と関係機関とで始められた。

誓願式

○オタワ愛徳修道女会

岩間優子さんと斎藤リエさんの初誓願式が3月20日に東仙台教会で行なわれた。

○聖ウルスラ修道会

中島久仁子さんの初誓願式と遠藤トシ子さんの終生誓願式が3月21日に同会本部聖堂で行なわれた。

十字架の道行の写真

元寺小路教会の旧聖堂にあった船越保武

作「十字架の道行」の全写真が「聖心の使徒」(日本祈祷の使徒会)3月号に掲載された。

編集後記

「信じるなよ、男でも、女でも、思想でも。ほんとうによくわかるまで。わかりがおそいってことは恥じゃない。後悔しないためだった一つの方法だ。」

威勢のいいことを云うやつがいたら、そいつが何をするか、よく見るんだ。お前の上に立つやつがいたら、そいつがどんな飯の食い方をするか、他の人にはどんなものの言い方をするか、ことばやすること、裏表がありやしないかよく見分けるんだ。自分の納得できないことは、絶対にするな。どんな真理や理想も、手がけるやつが糞みたいになやつなら、真理も理想も糞になる」▼『戦争と人間』(五味川純平)にある言葉ですがあなたにはどのように聞こえていますか▼いろんなことを考えさせられる言葉です。人間を見つめ、日本人を見つめ直すため、自分が今どこに立っているかを問い直させられる言葉です。

